

「このご時世に屋外へ向けて音楽を流すなんて信じられないな」心理 | 屋外音楽 | 防災放送

[ライブラリ](#)

かつては賑わっていた都市

ツンデレ「やだ、誰もいない…。あついた。二人歩いてる!!」

まこと「ゴーストタウンではなくゴーストヴィレッジだな」

ツンデレ「村に音楽が流れてる。スピーカーを木に埋め込んでない？ 自然破壊だよ。屋外音楽も今時信じられない」

まこと「音楽配信事業者のウェブサイトには『屋内音楽』と書かれている。契約時期や契約内容の違いかな？ このご時世に屋外へ向けて音楽を流すなんて時代錯誤も甚だしい。屋内向けに配信された音楽だろうに」

ツンデレ「歩いてる人が消えた。通行人は私達だけ。実質誰もいない。だけど屋外音楽が流れてる。聴く人がいないんだから、音は必要ないよね」

まこと「そうなんだよ。誰もいないのに午前11時から午後5時まで屋外音楽を流している」

ツンデレ「不思議…」

まこと「何度か来て、やっとわかった」

ツンデレ「何なの？」

まこと「産業も観光もないから人が出ていくばかりだ。以前は鉄鉱石採掘事業で賑わっていた都市だが、人権問題が取り沙汰され、仕事がなくなり、いつしか寂れた集落となり下がって、『村』に降格した。しかし、輝いていた過去が忘れられず、活気ある都市にふさわしい屋外音楽を流し続けているんだよ」

ツンデレ「でも、屋外音楽を聴く人がいないじゃない。屋外音楽で人が集まって来る様子もないし。むしろ見えないところで反感を買っていると思うけど」

まこと 「そうだ。自分もずっとそこに引っかかっていた。なぜ聴く人がいないのに屋外音楽を流すのか。そして村の上層部も、屋外音楽を管理しているのも大人達だ」

ツンデレ 「それで!？」

まこと 「人は願望をどんな形であっても叶えなければならないんだ。つまり…」

ツンデレ 「何なの!？」

まこと 「音は人なんだよ」

ツンデレ 「えっ!？」

まこと 「音を流すことで、村は人で溢れた都市になる。音が人代わりなんだから」

ツンデレ 「音が人なの!？」

まこと 「そうだ。音を止められないのは、音を止めたら、人がいなくなると思っているからだ。だから日中は音を流している」

ツンデレ 「やー…どうかしている。現実を見られないんだ」

まこと 「いや、彼らは現実を見てる。直視できないんだ」

ツンデレ 「直視が…？」

まこと 「現実を直視できていれば、出て行く人を無理に止めやしない。引き止める本人が出て行けない理由が「老齡のため」なら、若ければ出て行くことになるが、現実直視できないついでに理論的思考もできず、自分が残っている理由よりも、出て行く人に対する不満を感情論で罵るばかり。年齢を理由にするが、その実、残りたから残っているに過ぎず、残ることを自分で選んでいるが、残れば残酷な現実が待っており、現実を直視したら精神がまいってしまう。精神を病まずに残るには、自分達の願望を叶えるしかない」

ツンデレ 「賑わいを取り戻すには、人で溢れる必要があった…。でも、空間を埋めているのは音よ。人じゃない」

まこと 「村民達にとって、音は人なんだよ」

ツンデレ 「なんとかならないの？ 解決策は？」

まこと 「現実を直視してもらうしかない。あとは本人次第だ」

ツンデレ 「厳しい現実を直視するのね」

まこと 「そうだ。現実には常に厳しい」

おしまい

商店街

- 「屋外放送してるところへ後から来たのに、偉そうなことを言うな」は、ある程度は理解できますが、理不尽な仕打ちには声を上げなければ、理不尽行為は促進します。理不尽な行いは認められません
- 「商店街で事業をして何が悪い。屋外放送くらいは許される」個人事業主が自宅から商店に通っているなら、営業のために屋外放送を聞きますが、商店街周辺の住民は、家で休んでいるときに屋外放送を聞かされるので、同じ屋外放送でも状況がまるで違います。店舗兼住宅に住んでいる個人事業主は住民と同じように屋外放送を聞きますが、自分達がしたくてしていることなので、住民と同じではありません
- 屋外放送をして、地域活性化のために賑わせるはずが、周辺から恨みを買います
- 音楽配信事業者は包丁理論を持ち出して「配信者に罪はない。使用者に問題がある」と主張なさると思いますが、音楽を配信しなければ問題は起きません。問題を起こす契約者への音楽配信の停止は、技術的に可能だと思います（技術的事情不明）
- 屋外放送は「個人が部屋の中で自由に過ごす権利」を侵害しております
- 「人に来てもらうために屋外放送を流す」、そして人が集まったら「集まった人のために屋外放送を流す」という言い分を通して来るはずですが。しかし当初は「商店街に来てくれたお客様のために屋外放送を流す」をしていたのですから、人がいなくなったら屋外放送を止めるのが筋です
- 商店街側が住民に対して「～をすればいい」と提案するなら、商店街側が住民側からの「～をすればいい」を実行に移せばいいのです

屋外音楽 | 防災放送

- 聞きたくもないのに聞かされる
- 役に立ってないのに聞かされる

聞きたくもない音楽放送，または役に立ってない防災放送を聞かされることが苦痛なわけでした，音量が問題ではないのです。

日常から，聞きたくもない音を自室で聞かされるなら，土足で自室に上がり込まれているのと同じで，腹が立つのは当然です。そしてその時，人は「意図」を感じ取ります。

聞きたくもない音を聞いた時に，聞かされる側が大筋で感じ取ってしまう放送側の意図と思い（感想）

【意図】放送は必要とされているから多少の事は止むを得ない

【思い】大切にされる人がいる一方で，自分は軽く扱われている

【意図】何も言って来ないということは是認したということ

【思い】我慢しているだけなのに「認めた」と思われるのが癪に障る

聞かされる側が感じ取った意図は想像の産物ですが，想像が当たっているか外れているかはどちらでもよく，聞かされる側ができることは，音から意図を切り離すことです。意図の切り離しができれば，音を聞いても「あのヤロー，ぶっ×す!!」「なぜ放送側の意向が通り，私どもの意向が通らないのか」はなくなります。

意図の切り離しができたとしても，大音量で流されればうるさいです。大きな音がうるさいのは当然で，体が苦痛を訴える正常な反応をしています。ですから，聞かされる側ができるのは，音から意図を切り離すことまでで，『音の暴力』と言える行為にまで，心理的には対処できません。

音と意図の切り離し方ですが，上記の物語のように，放送側の心理を知ることだと思います。相手の哀れな心理がわかれば，たぶん音から意図を切り離せます。

放送側の考えを直接聞いたわけでもないのに，相手の意図を感じ取れるのですから，あなたなら相手の心理が読めます。

音から意図を切り離せたけど，大きな音が流されてうるさいなら，みんなうるさいと思ってますので，数の上ではこちらが有利です。

「今日はいつもより音が大きいな!! よし，みんなを連れて文句を言いに行ってみよう」と思ったら音量が下がりました。「なんだよ，もっと大きな音を流しやがれ!!」…大音量放送の「事実」は変えられませんが，大音量放送の「認識」は変えられます（心理全般として，事実を変えられませんが認識は変えられます）。

みんな仲良し

仲良くなる、という方法があります。仲良くならなくても、一言でも二言でもいいから会話します。心理的にはかなり効果がありますが、抵抗感も大きいです。

相手はキツネやタヌキ（のような人）と発覚したら、「自分はいいように言いくるめられた!!」と思うようになり、効果は出ません。

後から来たのに…

「後から来たのに偉そうなことを言うな!!」と言われますが、「後から来たのに」は、実は間違いで、正しくは「オレの方が偉いから」です。なぜなら彼らは、気に入らなければ同時期に来た人にも文句を言うからです。来た時期は関係ないので

「オレの方が偉いんだから…」を、「後から来たのに…」にすり替えているのですが、彼らは感情的思考をしますので、本来の理由を自身がわかってません。

理論的思考ができれば、「放送時間を短くしてほしい。そんなに長い時間は必要ないはずです」「スピーカーがそっぽを向いているため、防災放送として役に立ってません。だから廃止してほしい」などの理論的な訴えがあれば、聞き入れてくれるはず

聞き入れないなら「放送はオレのすべてだ!!」と権力者が権力を振りかざしているのです。

放送は一体誰のため？電気エネルギーのムダ使いはやめましょう。

最終更新日 2026-06-29

[まこと](#)